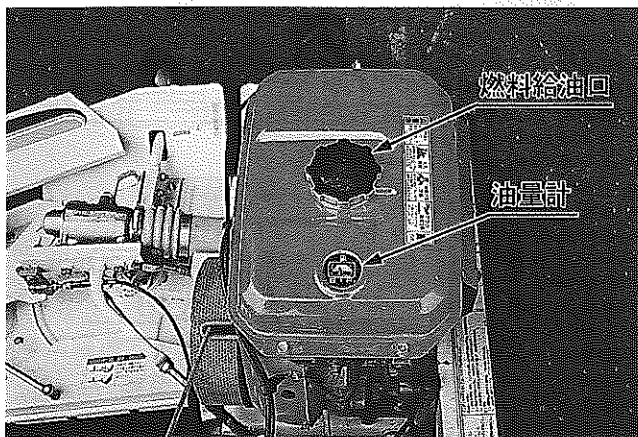


■燃料の点検・補給

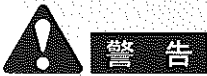


- * 燃料を補給するときはエンジンを必ず停止し、冷えてから補給ください。
- * 燃料補給中は火気厳禁です。

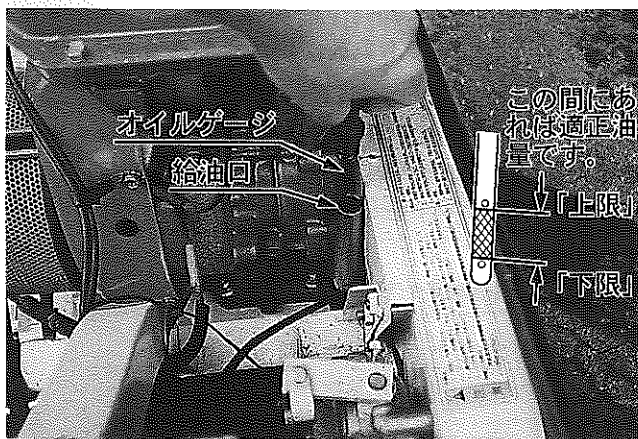
燃料には“自動車用レギュラガソリン(無鉛)”を使用してください。タンク容量：3.6L



■エンジンオイルの点検・補給



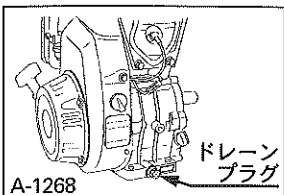
- * オイルを補給するときは、エンジンを必ず停止してください。
- * オイル補給中は火気厳禁です。



点検：作業前
 オイルゲージを外して先端をきれいにふいてから、ゲージを完全に差し込んで確認してください。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。

交換

- ドレーンプラグを外して、エンジンオイルを排出します。排出後はドレーンプラグを元の状態に締付けてください。

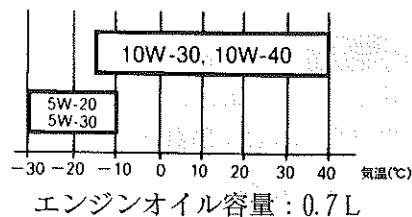


補給

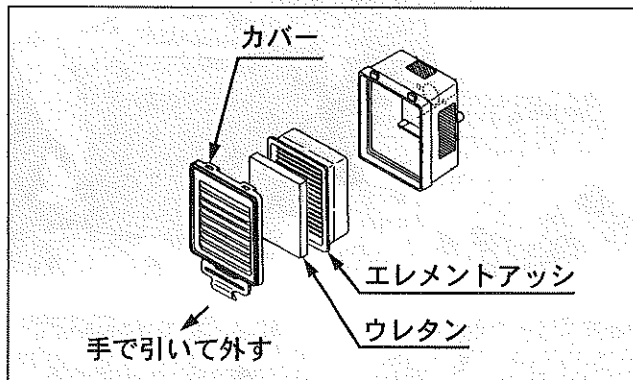
- オイルゲージを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)



- * オイルゲージは、手で確実に差し込んでください。
 - * 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。
 - * ドレーンプラグは確実に締付けてください。
- クボタ純オイル又はAPI分類SE級以上をご使用ください。



■エアクリーナの点検・清掃



重要

- * エレメント及びウレタンは、清掃・交換以外は必要にさわらないでください。
- * エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。
- * 乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- * エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。

点検：作業前

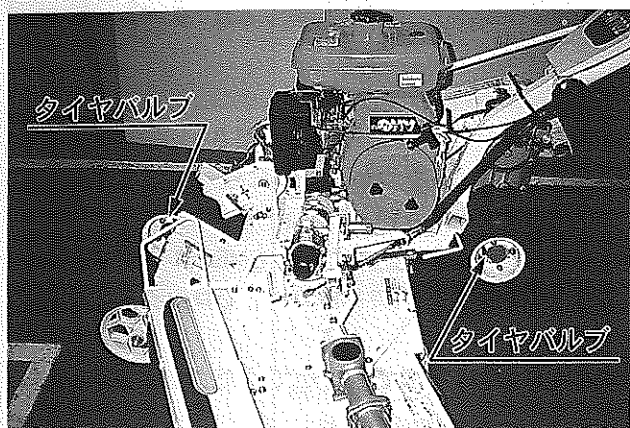
エアクリーナーが汚れていたり、目詰まりしたまま使用すると、エンジンの寿命に影響します。清掃は50時間ごとです。(ホコリの多い作業のときは8時間ごと又は1日1回)

■タイヤ空気圧の点検

①空気圧が不足するとスリップして使いにくくなります。

空気圧：0.2MPa(2.0kg/cm²)

②空気圧が低い場合は、ハンドポンプ等でタイヤバルブから空気を入れてください。空気を入れるときは、途中でタイヤゲージで空気をチェックしながら入れ過ぎないように注意してください。

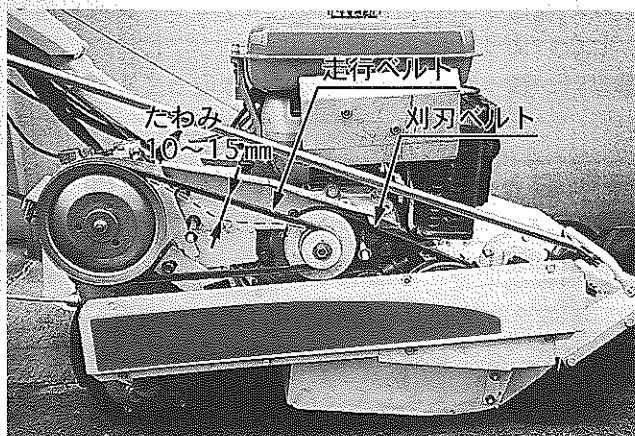


■ベルトの点検と交換



警告

*各ベルトの点検調整・交換をするときは、エンジンを必ず停止してください。



①ベルトの中央部を指先で軽く押してたわみを見る。

②ベルトが摩耗や欠損しているときは交換してください。

■走行ミッションケースオイルの交換



警告

*オイルの交換をするときはエンジンを必ず停止して、じゅうぶん冷えた状態で行なってください。

*オイル交換中は火気厳禁です。

◆排油のしかた

ミッションケース下部にある排油プラグを外して、ミッションケース内のオイルを排出します。このときオイル受け皿を用意し排出してください。

◆給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から給油し、オイル給油プラグをきちんと締付けてください。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M80又はM90 (ミッション用)	0.9L

■電気配線の点検



注意

*点検・交換するときは、エンジンを必ず停止してください。

◆電気配線の点検

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり、また配線が損傷していると電気部品の性能をそこなうだけでなくショート(短絡)、ろう電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

■ギヤケースへのグリース注入

約30時間(約20ha)ごとにグリースを確実に注入してください。

